

# 令和2年度 京の川の恵みを活かす会 事業実施報告

## 【多面的機能発揮事業として実施された活動報告】

### ■多様な魚種のための道づくり

#### ◎丸太町落差工に仮設魚道を設置

日 時：令和2年3月16日（月） 9:30～13:30

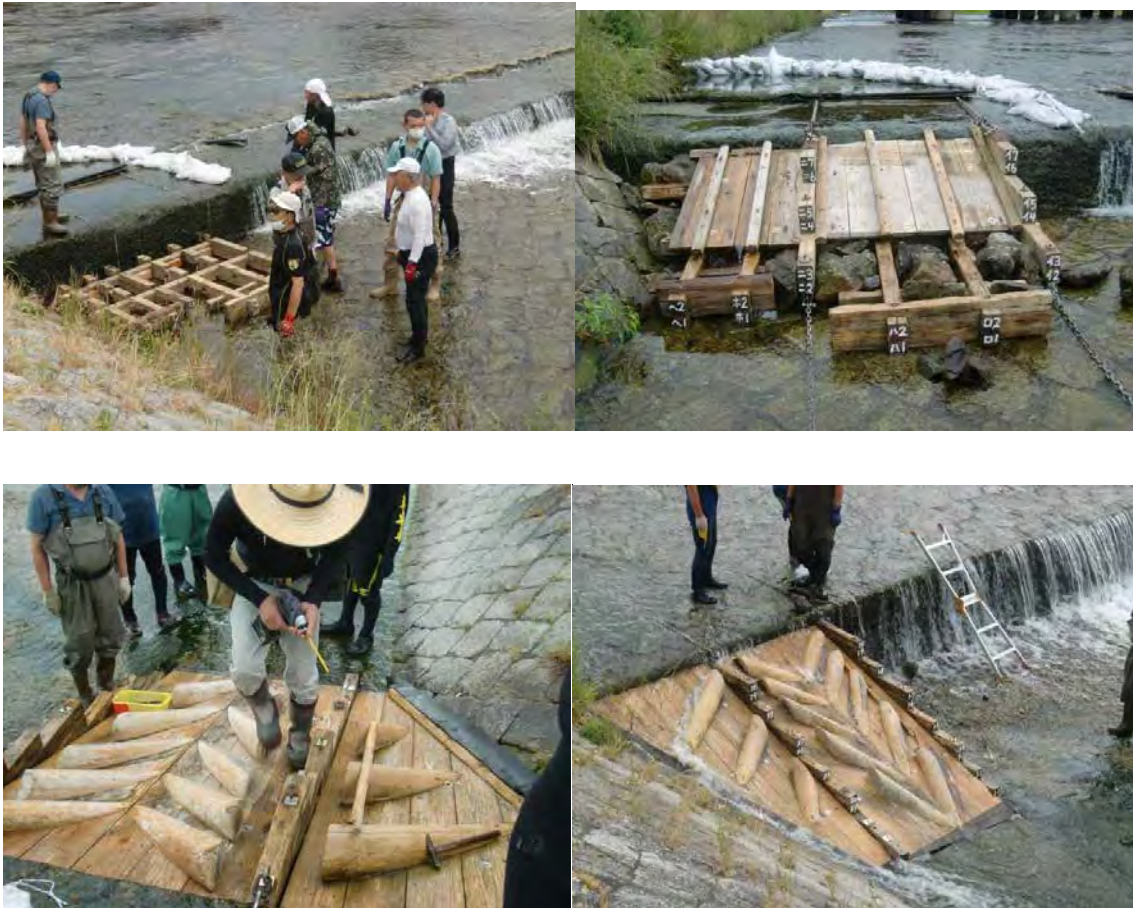
場 所：丸太町落差工・右岸（京都市上京区）

参加者：11名

内 容：丸太町落差工については、従来の左岸から右岸側に設置場所を変更し、スギの角材を使った「木組み階段式箱型魚道」を設置した。







◎魚類遡上調査を実施

日 時：令和2年5月30日（木）～7月31日（月）

場 所および参加者：

今井堰（京都市伏見区竹田青池町）

調査協力者数：のべ50名

桂川3号井堰（京都市右京区・西京区）

調査協力者数：6名

合計：のべ56名

内 容：鴨川及び桂川の天然アユ等の遡上状況を把握するため、遡上する魚類数の調査を行った。大阪湾から鴨川に遡上してくる魚類の総数を表すのに重要な今井堰においては、活かす会会員の京淀川漁業協同組合の皆さまを中心に調査員が配置された。また桂川3号井堰では、井堰において遡上調査に加えて、魚類の汲み上げ調査も行った。今年は、新型コロナウイルス感染症のため調査できる日が例年に比べ少なくなったことが結果に表れた。  
結果は、今井堰708尾、桂川の3号井堰も総数で109尾であった。



◎三条落差工仮設魚道を撤去

日 時：令和2年8月5日（水） 9:30～11:30

場 所：三条落差工・左岸

参加者：14名

内 容：7月の梅雨による増水で破壊された三条魚道の撤去を行うとともに、魚道設置場所付近の清掃活動を併せて実施した。



◎丸太町落差工仮設魚道を撤去

日 時：令和2年11月16（月） 10:00~13:00

場 所：丸太町落差工・右岸

参加者：13名

内 容：魚道の撤去を行った。





◎荒神口落差工仮設魚道を撤去

日 時：令和2年11月17日（火） 10:00~14:00

場 所：荒神口落差工・右岸

参加者：10名

内 容：魚道の撤去を行った。



### ◎三条落差工に仮設魚道を設置

日 時：令和3年3月27日（土） 9:30～16:00

場 所：三条落差工・右岸（京都市中京区石屋町） 参加者：26名

内 容：9時30分に集合し、図面をもとに作業を開始した。三条落差工では下の落差工に新型の箱型魚道を制作した。右岸には観光客が多く訪れるため、昨年と同様、魚道を遡上するアユを市民や観光客が観察できるような魚道とした。



### ◎流下仔魚調査を実施

日 時：令和2年11月21日（土） 18:00～23:30（1回目）

令和2年11月28日（土） 18:00～23:30（2回目）

令和3年1月12日（土） 18:00～23:30（3回目）

場 所：桂川・天王山大橋及び宇治川及び木津川・御幸橋（八幡市）（1回目、2回目）  
新淀川大川河口アユ仔魚船曳調査（3回目）

参加者：延べ34名

内 容：桂川の天王山大橋上と宇治川・木津川の御幸橋上において、新村氏が考案した

流下仔魚ネットを使って5回づつ調査を行った。

各河川において多くの仔魚が発見されたが、死亡率も高い事が判明したため原因究明が必要になる

3回目の調査は、大阪の新淀川大川河口において、船の上から流下仔魚ネットを使って調査を行った。その結果、数匹の流下仔魚が採取できた。



## ■水生生物のすみかづくり/内水面の生態系の維持・保全

### ◎ゴリの産卵場整備を実施

日 時：令和2年8月4日（火） 10:00~12:00

場 所：嵯峨美術大学前桂川左岸河川敷

参加者：のべ22名

内 容：これまでに調査した結果により、ゴリの産卵床造成に適した時期や場所などの環境条件が整理されたことから、京都府下の内水面漁業者に今後広く手技が使用されるよう、保津川漁業協同組合が主催する産卵床造成活動に協力してきた。

砂州の陸上等からゴリの産卵に最適な砂を適当な場所に搬入して、そこに産卵用の石を適切に配置してゴリの産卵床を造成した。